

●**運転事故無事故表彰の続き**

【会社との主なやり取り】

一方で、同制度は、「運転取扱い業務に従事する者」のみを対象となっていることや過去に「事故概念の見直し」や「全員参加型の安全管理」を実現してきたことで会社の目指す「あるべき姿」に沿うように見直していく必要がある。また、この制度において、「事故を発生させたか否か」「懲戒処分があったかどうか」という結果のみを評価する仕組みとなっていたが、安全性向上への更なる意欲向上を図るにあたり、社員の工夫や努力、周囲への働きかけや他者の良質な取組みからの学びといったプロセスを含め評価する制度に見直していく必要があると考えている。

生じた際の動物遺骸の処置にあたっては、ゴム手袋等を使用して直接触らないなど(各箇所において)指導をし、社員の感染症予防等の観点からも、今後とも必要な対策や社員教育などを適宜、実施していくことを確認した。

●**厳しい状況の中、労使一体となって苦難を乗り越えていくことについて**

今次春闘においては、ご利用状況や収入が落ち込み中、新型コロナウイルスへの感染防止の取組みなど組合員は精一杯業務に取り組んでいる。今後、先行きは不透明であるが、2020年度も労使一体となってこの困難を乗り越える取組みを進めた結果、新型コロナウイルス感染が収束し、さらにオリンピック等のイベントが開催されるなどにより収入状況が回復し、一定の成果が出た場合は、改めて社員への配分を行うこと、この厳しい環境の中で奮闘している組合員に対して会社から不安を払拭し、勇気づけるような会社メッセージを発信することを確認した。

会社は、労使間で中長期的な視点に基づく建設的議論を前提に、人材確保や生産性向上などの課題に対して互いに協力して取り組み、成果を作り出していくべきと考えており、その成果に基づき安定的な還元を社員にも行っていくことが、社員の働きがい向上や生活の安定につながるとの見解を改めて示した。

●**新型コロナウイルス関連肺炎の JR西日本グループへの影響について**

新型コロナウイルスの影響で、社会全体が「自粛モード」となり、中小企業では倒産や解雇、自宅待機と報道もある。JR西日本グループ会社でも相当のご利用状況が悪化していく中で、困難を乗り越えるため、グループ会社においても労使一体となって取り組んでいく必要があることを労使間において確認し、収入が大きく減少し、事業継続や雇用の心配が出てくる会社もあることを踏まえ、労働組合の原点でもある「雇用を守る」という観点のもと、会社には組合員の不安は起こさないようにJR西日本グループとして取組むことを要請した。

会社は、JR西日本グループ全体で事業運営を支えていくこと、グループ会社の労使間で真摯な議論を行うことが必要であり、JR西日本としてもグループ会社をバックアップしながら、JR西日本グループで一体感を持って難局を乗り越えていくことを確認した。

●**地上職の職場環境等の「目に見える形で改善」について**

2019春闘において「地上職の職場環境などについて、目に見える形で改善を行うべく、今後、具体的に検討を開始」と口頭表明がなされ、諸課題等において会社と議論を行ってきたが、「目に見える形」としては不十分な内容が多く、今次春闘に入る直前まで議論を重ねてきた。春闘における口頭表明は非常に重たく、組合員の関心も期待値も高いことを会社として受け止めるべきである旨を会社に強く要求し、優先順位を付けながら、スピード感も含めてしっかり対応していくことを再度、確認した。なお、地方における個別の改善については、地本・支社間で計画や進捗状況等を確認することとした。

●**動物遺骸処理について**

確認内容

現状の動物の遺骸処理作業に従事する組合員の作業環境や労苦に報いるために、「1回単位」から「1頭単位」に見直すことが出来た。一方で、昨年から議論している動物の遺骸処理時の感染防止や衛生管理の環境整備や教育について、関係する組合員及び職場へしっかり対処するよう強く要求し、対応することを確認した。

【会社との主なやり取り】

動物の遺骸処理については、事象発生後に対応する社員への感染防止への必要な対策や十分な教育等が実施出来ていない現実を踏まえて、会社に対して対処するよう要求した。

会社としては、昨今なかなか減らない動物との接触事故に対して、これまでもさまざまな対策を実施してきているところだが、発

参考資料

消費者物価指数の推移と JR 西労組が勝ち取ってきた賃上げの推移

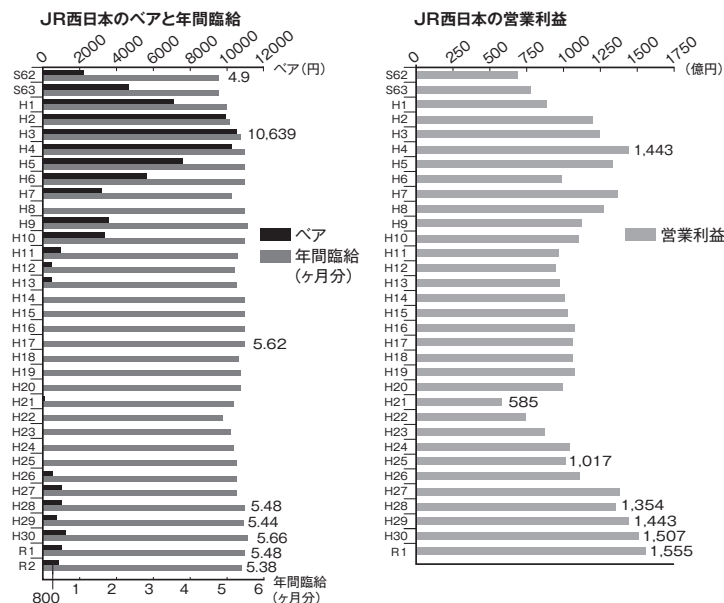
年度(西暦)	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
年度(元号)	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14
賃上げ率実績(%)	3.21	4.20	5.06	5.97	5.92	5.57	4.51	3.77	2.95	3.01	3.00	2.91	2.19	2.04	1.22	1.11
ベア額(円)	2,232	4,718	7,176	10,032	10,639	10,359	7,698	5,688	3,225		3,600	3,400	1,000	500	500	0
消費者物価指数	85.97	86.55	88.52	91.25	94.21	95.87	97.06	97.73	97.61	97.74	99.44	100.11	99.77	99.09	98.36	
年間臨給(ヶ月分)	4.9	4.9	5.1	5.2	5.5	5.6	5.6	5.6	5.25	5.6	5.7	5.6	5.42	5.32	5.4	5.6
営業利益(億円)	708	793	909	1,224	1,278	1,443	1,365	1,011	1,403	1,300	1,148	1,127	990	970	995	1,032

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
1.16	1.17	1.21	1.24	2.03	2.03	1.81	1.84	2.01	1.91	1.69	1.80	1.98	1.91	1.90	2.13	2.12	—
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	500	1,000	1,000	750	1,200	1,000	800
97.20	97.19	96.91	97.16	97.22	98.57	97.24	96.53	96.27	96.22	96.55	99.21	100.00	99.88	100.35	101.56	101.60	—
5.6	5.6	5.62	5.45	5.5	5.5	5.3	5.0	5.22	5.3	5.38	5.38	5.38	5.48	5.44	5.66	5.48	5.38
1,054	1,100	1,089	1,089	1,098	1,020	585	758	892	1,023	1,017	1,120	1,372	1,354	1,443	1,507	1,555	—

※1(西)H2花博一時金6万円 ※2(西)H3配当開始記念一時金5万円 ※3(西)H7震災復興一時金11万円 ※4(西)H8株式上市記念ギフトカード5万円
 ※5(西)H16完全民営化記念旅行券6万円 ※6 H19賃金改正移行措置400円 ※7 H20初任給改定措置500円
 ※8(西)H23二大プロジェクト体感考動券(日旅券3万円、お買物券2万円) ※9 北陸新幹線開業等一時金5万円
 ※10 中経達成0.18ヶ月を含む ※消費者物価指数は、2015年を100とする

7期連続のベア獲得

J R 西労組が勝ち取ってきた賃上げの推移



この7年間(2014年~2020年)で獲得したベアによる生涯賃金の変化

2014年以降、7年連続のベースアップにより、基本給が6,250円積み上がっている。(右表を参照)

7年連続で積み上がったベアの合計▶

獲得年	獲得ベア
2020年	800円
2019年	1,000円
2018年	1,200円
2017年	750円
2016年	1,000円
2015年	1,000円
2014年	500円
合計	6,250円